

9
モーセ
聖徒伝 35

「栄光を映し出す 者として」

出33～34章 モーセを照らした主の栄光

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 民の嘆き モーセの願い 34章

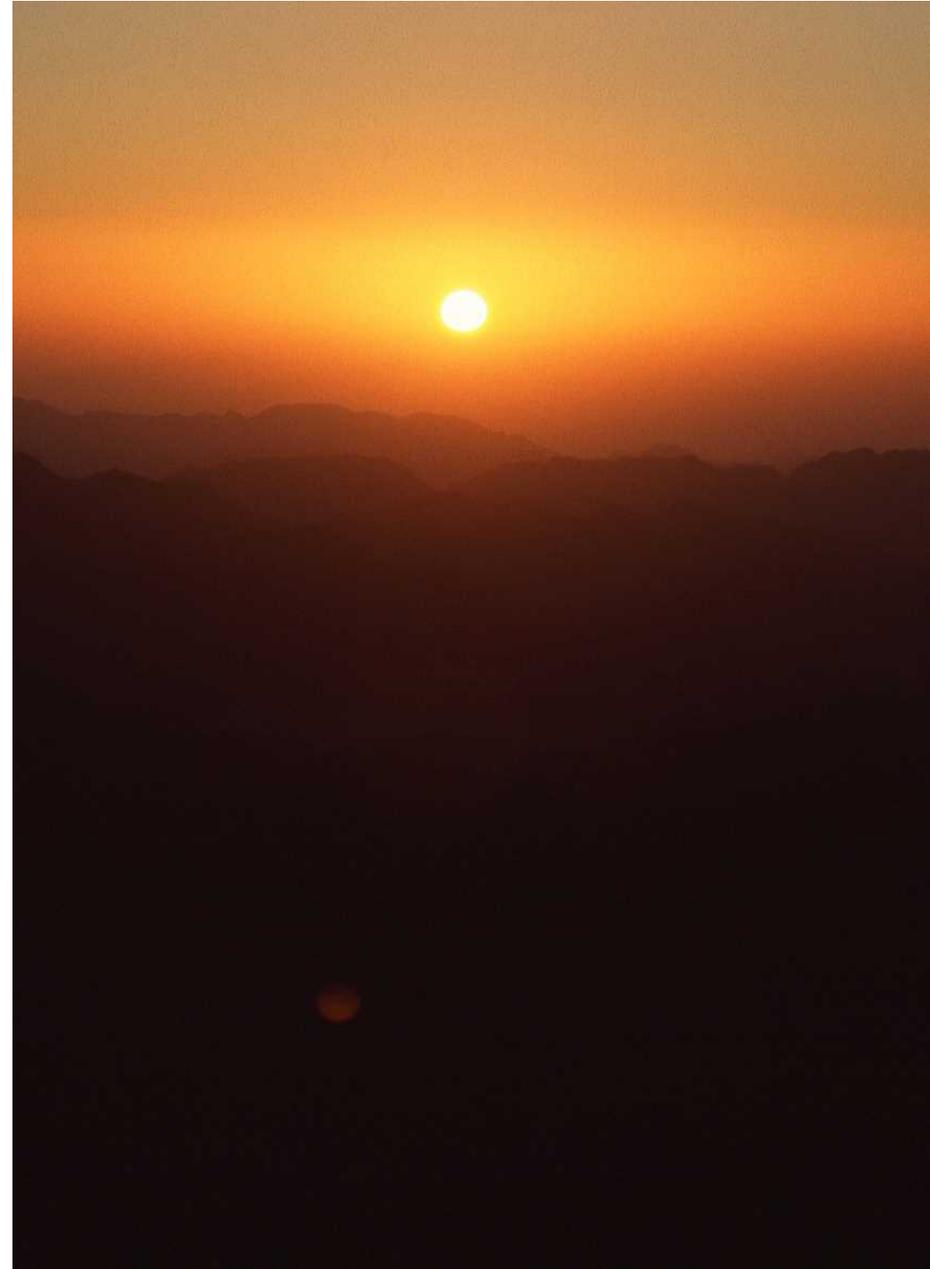
II. 律法の再授与

モーセが仰ぎ見た主の栄光 35章

III. まとめと適用

主の御顔を仰ぎ見よう

おどろくばかりの恵みに感謝して



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

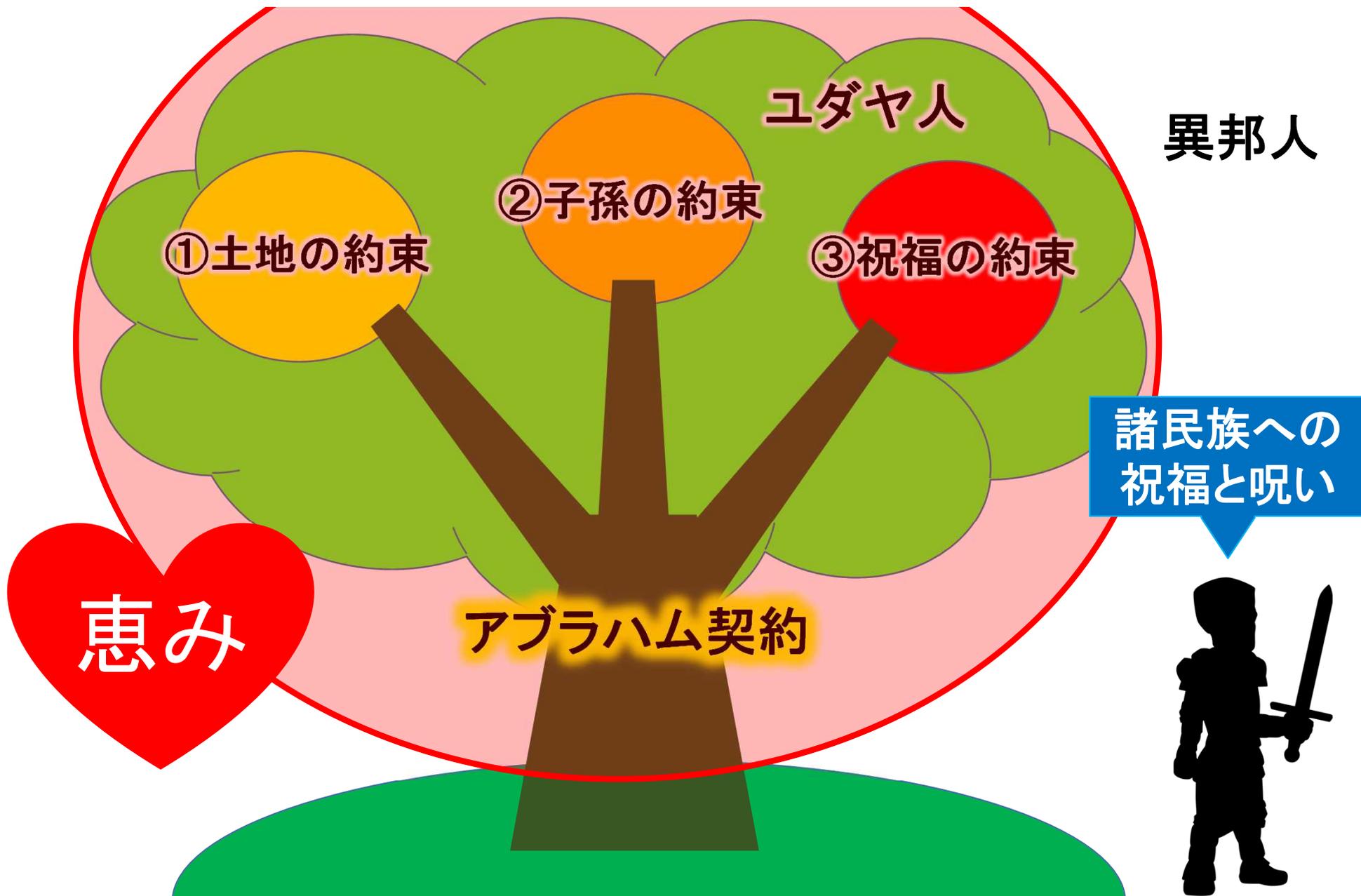
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

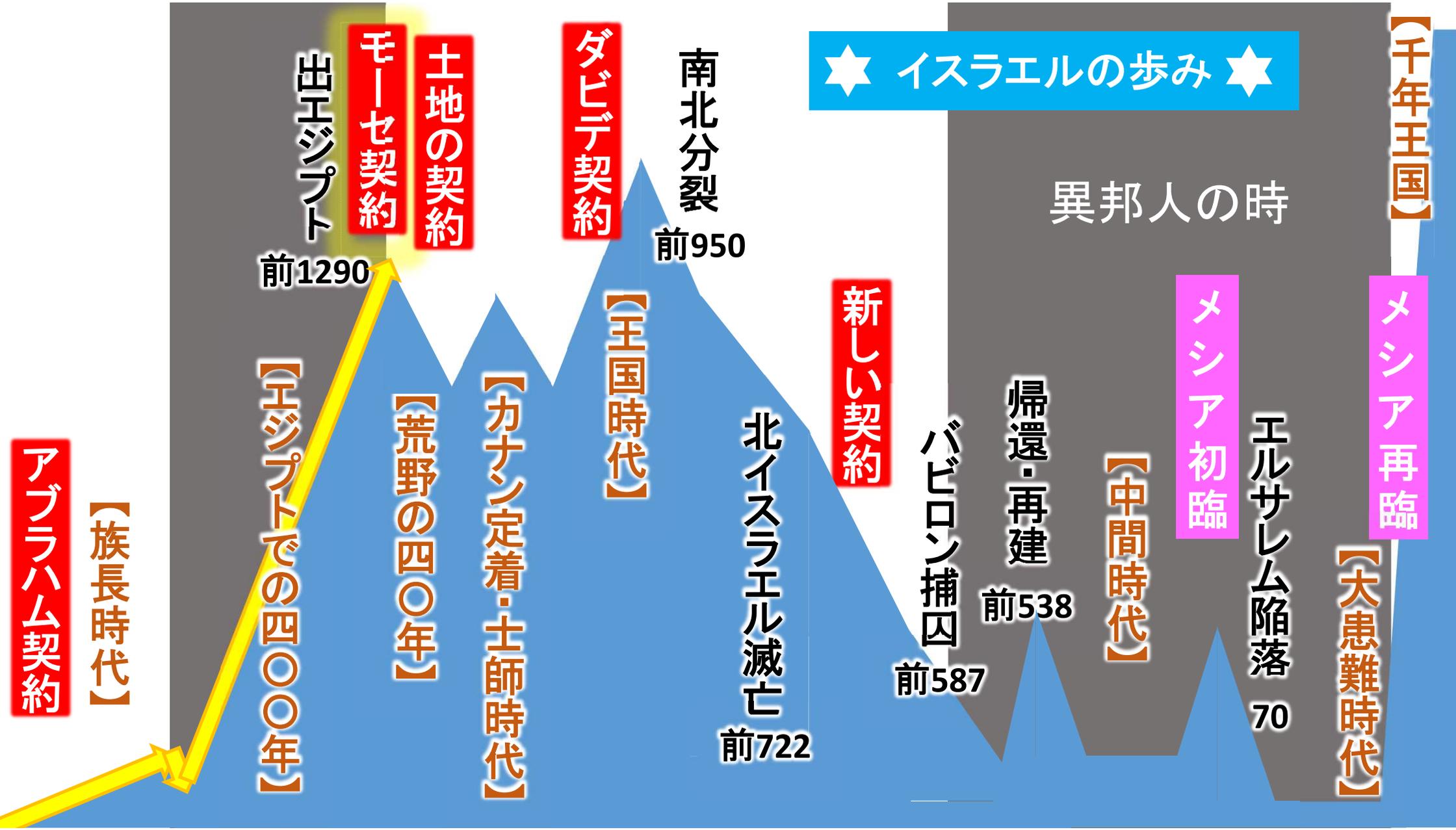
アブラハム契約が、
イスラエルを守り、導いた!!



【アブラハム契約】



★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

【中間時代】

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

前1290

前950

前538

前587

70

南北分裂

帰還・再建

エルサレム陥落

新しい契約

ダビデ契約

土地の契約

モーセ契約

出エジプト

0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命
80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

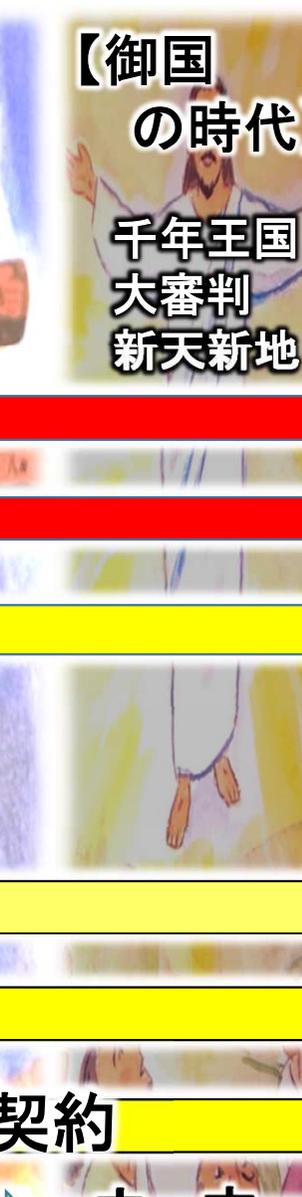
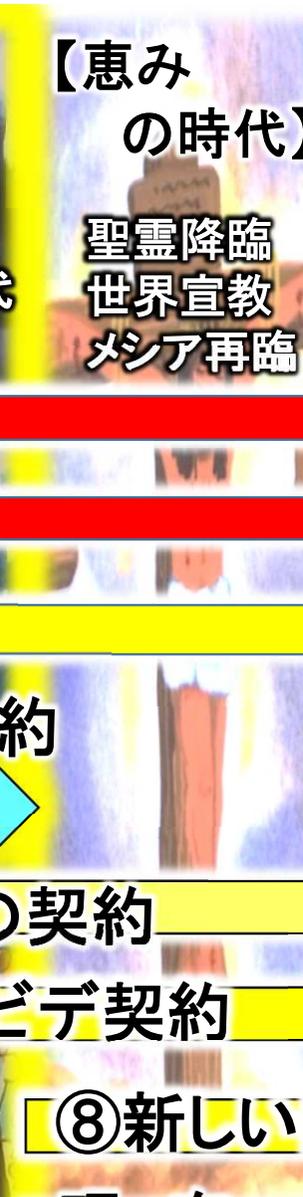
民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。

律法は、イスラエルを導く、飴と鞭

罪を思い知らせ、救い主へ導く



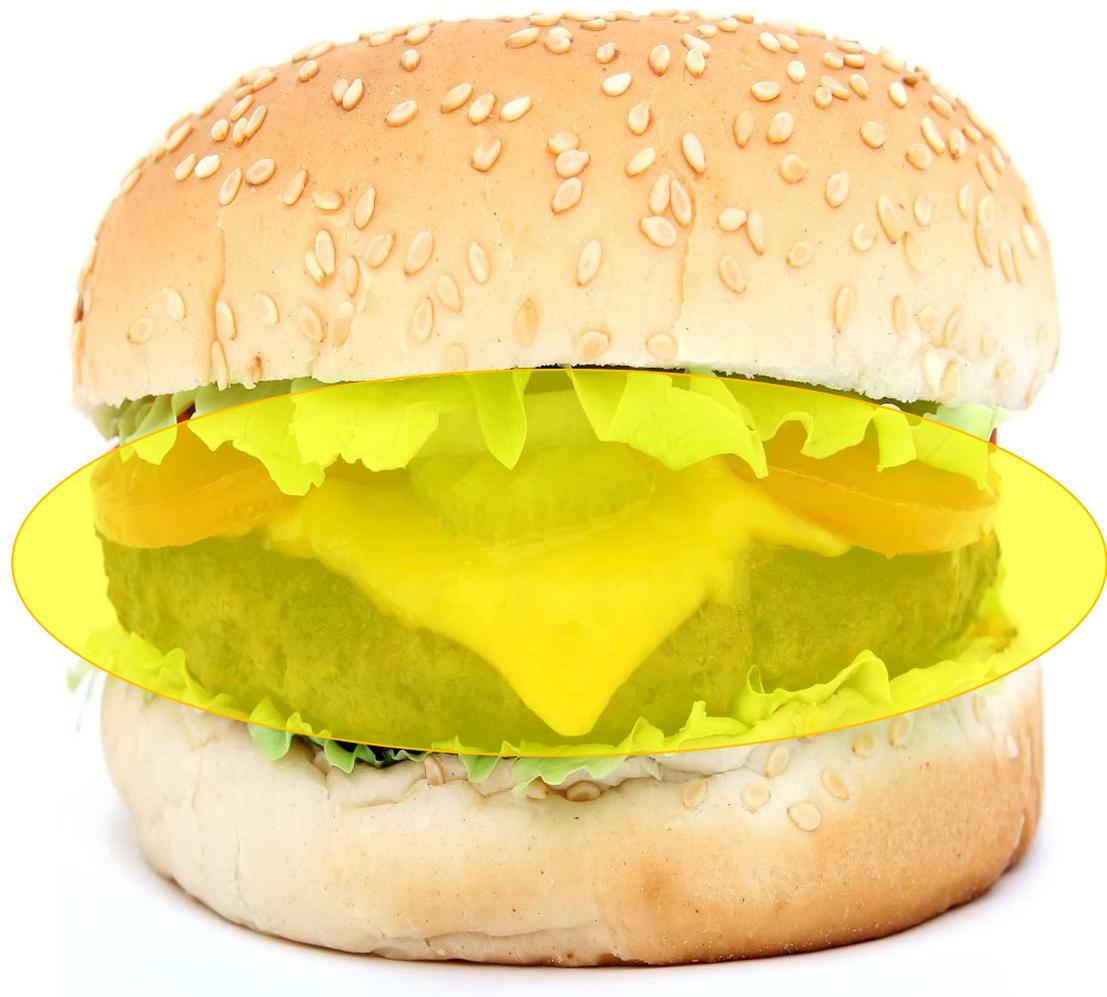


I. 民の嘆き モーセの願い

出エジプト記33章

【出エジプト記・後半の流れを確認しよう!!】

- 律法授与 20～24章
- 幕屋建設の指示 25～31章
- 金の子牛事件 32章
- 律法の再授与 33～34章
民の悔い改め モーセの願い
- 幕屋建設・完成 35～40章



【主の宣告】 出33:1～3

【主】はモーセに仰せられた。「あなたも、あなたがエジプトの地から連れ上った民も、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、『これをあなたの子孫に与える』と言った地にここから上って行け。わたしはあなたがたの前にひとりの使い*を遣わし、わたしが、カナン人、エモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払い、乳と蜜の流れる地にあなたがたを行かせよう。**わたしは、あなたがたのうちにあっては上らない**からである。あなたがたはうなじのこわい民であるから、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼすようなことがあるといけないから。」

* **ただの天使** ➡ 出エジプトを導いた
「**主の使い (受肉前のキリスト)**」ではない

代理のがっかり感



【民の悔い改め】 出33:4～6

民はこの悪い知らせを聞いて悲しみ痛み、だれひとり、その飾り物を身に着ける者はいなかった。【主】はモーセに、仰せられた。「イスラエル人に言え。あなたがたは、うなじのこわい民だ。一時でもあなたがたのうちにあって、上って行こうものなら、わたしはあなたがたを絶ち滅ぼしてしまうだろう。*今、あなたがたの飾り物を身から取りはずしなさい。そうすれば、わたしはあなたがたをどうするかを考えよう。」それで、イスラエル人はホレブの山以来、その飾り物を取りはずしていた。

* きよい神に、罪や汚れの立ち入る隙はない。

* **飾り物** → エジプトの飾り物は、偶像のシンボル。



【会見の天幕】 出33:7～8

モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外*の、宿営から離れた所に張り、そしてこれを会見の天幕*と呼んでいた。だれでも【主】に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのであった。モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、おのおの自分の天幕の入口に立って、モーセが天幕に入るまで、彼を見守った。

- * 宿営の内から神の栄光は去ってしまった。
- * 後に立てられる幕屋とは別物。ただのテント。



【神とモーセの会見】 出33:9～11

モーセが天幕に入ると、**雲の柱**が降りて来て、天幕の入口に立った。**主**はモーセと語られた。

民は、みな、天幕の入口に**雲の柱**が立つのを見た。民はみな立って、おのこの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。**【主】**は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせて*モーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋*を離れないでいた。

* 包み隠さず、明瞭に語られたということ。

* 幕屋は誤訳、2017版では「天幕」に訂正。

■ **神の栄光が、モーセに現れ、主は語られた。**



【モーセの願い①】 出33:12～14

さて、モーセは【主】に申し上げた。「ご覧ください。あなたは私に、『この民を連れて上れ』と仰せになります。しかし、**だれを私といっしょに遣わすか**を知らせてくださいません。しかも、あなたご自身で、『わたしは、あなたを名ざして選び出した。あなたは特にわたしの心にかなっている』と仰せになりました。今、もしも、私があなただのお心にかなっているのでしたら、どうか、**あなたの道を教えてください**。そうすれば、**私はあなたを知る**ことができ、あなたのお心にかなうようになれるでしょう。この国民があなただの民であることをお心に留めてください。」すると主は仰せられた。「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう。」

“わたしの顔(パニーム)が行く”



「神を知る」
出エジプト
の
大テーマ!!

【モーセの願い②】 出33:15～17

それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。私とあなたの民とが、あなたのお心にかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちといっしょにおいでになって、私とあなたの民が、地上のすべての民と区別されることによるのではないのでしょうか。」

【主】はモーセに仰せられた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名ざして選び出したのだから。」

神が共におられることで、神の民となる。

イスラエルも

私たちも



【モーセの願い③】 出33:18～20

すると、モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」 主は仰せられた。

「わたし自身、わたしのあらゆる善*をあなたの前に通らせ、【主】の名で、*あなたの前に宣言しよう。わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」

また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

* 神の栄光のこと。

* 主の名を宣言 ➡ 御名の宣言が、十戒の冒頭。

■ モーセの願いは、御心に適っていたゆえ、かなえられる。



【モーセの願い③】 出33:21～23

また【主】は仰せられた。「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは**岩**の上に立て。

わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを**岩の裂け目に入れ**、わたしが通り過ぎるまで、この手であな
たをおおっておこう。

わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであ
らうが、わたしの顔は決して見られない。」

* **岩**は、象徴的に**メシア**を示す。

■ きよい神の御顔を、罪人は見ることはできない。

■ **メシア**の守りの内ならば、御顔を仰ぐことができる。

■ しかし、まだ**メシア**は来られない。

モーセは栄光の片鱗を垣間見ることだけをゆるされた。





Ⅱ. 律法の再授与
モーセが仰ぎ見た主の栄光

出エジプト記34章

【主の命令】 出34:1～4

【主】はモーセに仰せられた。「前のと同じような二枚の石の板を、切り取れ。わたしは、あなたが砕いたこの前の石の板にあったあのことばを、その石の板の上に書きしるそう。朝までに準備をし、朝シナイ山に登って、その山の頂でわたしの前に立て。だれも、あなたといっしょに登ってはならない。また、だれも、山のどこにも姿を見せてはならない。また、羊や牛であっても、その山のふもとで草を食べていてはならない。」

そこで、モーセは前のと同じような二枚の石の板を切り取り、翌朝早く、【主】が命じられたとおりに、二枚の石の板を手に持って、シナイ山に登った。」

■モーセは、主の命令に忠実に従い、再度シナイ山へ登った。



【ヤハウェなる主のご性質】 出34:5~7

【ヤハウェ】は雲の中にあって降りて来られ、彼とともにそこに立って、【ヤハウェ】の名によって宣言された。

【ヤハウェ】は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。

「【ヤハウェ】、【ヤハウェ】(は)、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、恵みを千代*も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。*」

* 恵みは千代 → 永遠に、ということ。

* 咎は、四代で断ち切られるということ。

憐れみに満ちた愛

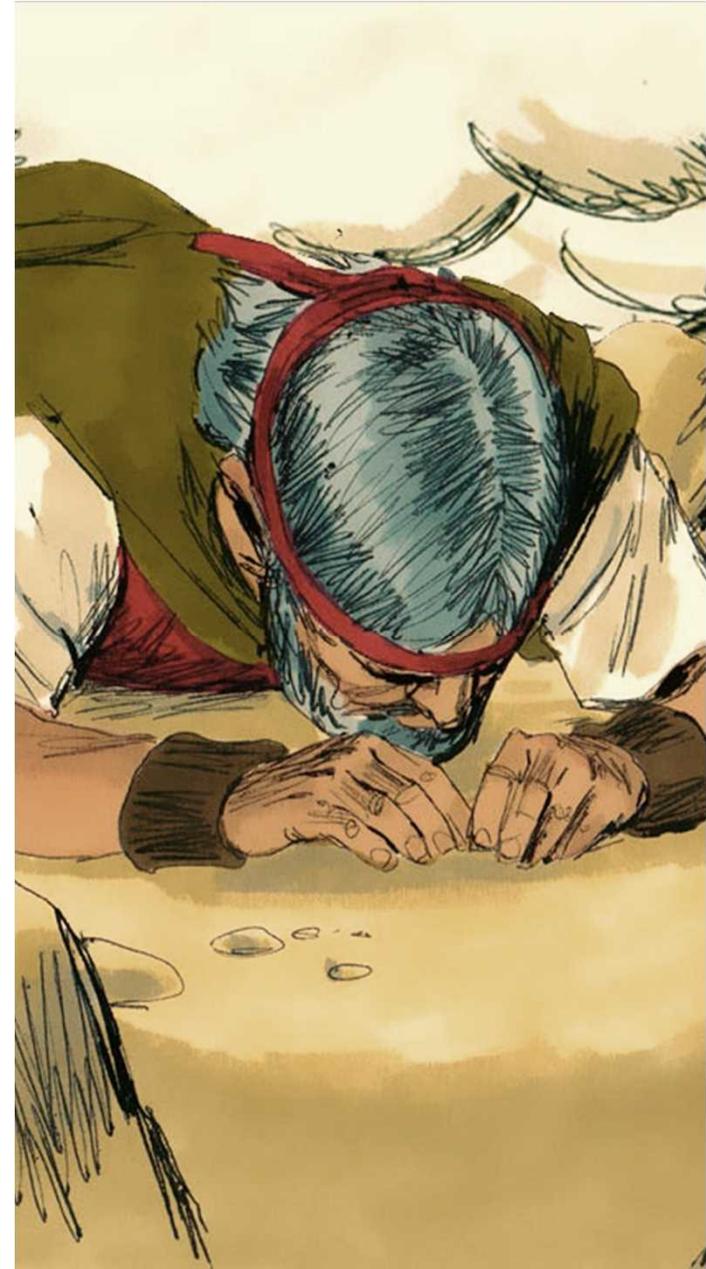
情け深い義の



【モーセのとりなし】 出34:8~9

モーセは急いで地にひざまずき、伏し拝んで、お願いした。「ああ、主よ。もし私があなたのお心にかなっているのでしたら、どうか主が私たちの中において、進んでくださいますように。確かに、この民は、うなじのこわい民ですが、どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自身のものとしてくださいますように。」

■シナイ山の上、主のもとで、再度ひれふし、民のために、とりなし祈るモーセ



【契約の再締結】 出34:10

主は仰せられた。「**今ここで、わたしは契約を結ぼう。**わたしは、あなたの民すべての前で、地のどこにおいても、また、どの国々のうちにおいても、**かつてなされたことのない奇しいことを行おう。**あなたとともにいるこの民はみな、**【主】のわざを見る**であろう。わたしがあなたとともに行うことは**恐るべきものである。**」

- 憐れみの主は、再度の契約を結ばれた。
- 主ご自身が、驚くべき御業をもって、御手の内に、イスラエルを守り、導かれる。



【偶像礼拝の民との交わりの禁止】 出34:11~14

わたしがきょう、あなたに命じることを、守れ。見よ。わたしはエモリ人、カナン人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を、あなたの前から追い払う。あなたは、注意して、あなたが入って行くその地の住民と契約を結ばないようにせよ。それがあなたの中で、わなとならないように。

いや、あなたがたは彼らの祭壇を取りこわし、彼らの石柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒さなければならない。

あなたはほかの神を拝んではならないからである。

その名がねたみである【主】は、ねたむ神であるから。

■配偶者の不貞をねたまない者に、愛はない。

神は、イスラエルを愛するがゆえに、靈的姦淫を妬む。

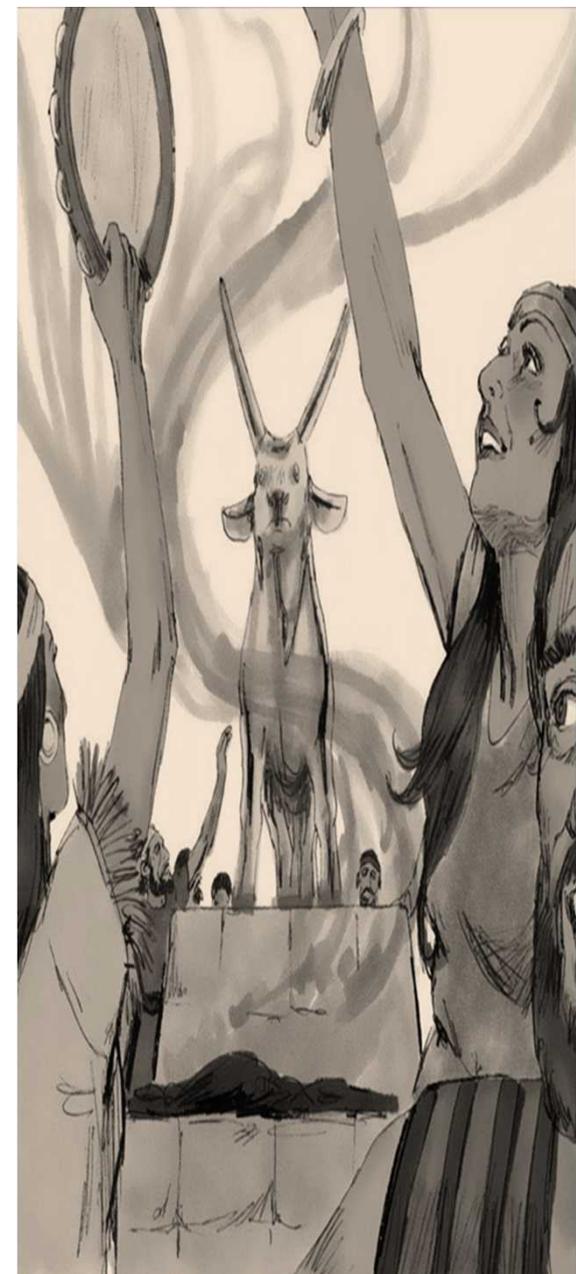


【偶像礼拝への警告】 出 34:15

あなたはその地の住民と契約を結んではならない。彼らは神々を慕って、**みだらな**ことをし、自分たちの神々にいけにえをささげ、あなたを招くと、あなたはそのいけにえを食べるようになる。

あなたがその娘たちをあなたの息子たちにめとるなら、その娘たちが自分たちの神々を慕って**みだらな**ことをし、あなたの息子たちに、彼らの神々を慕わせて**みだらな**ことをさせるようになる。あなたは、自分のために鋳物の神々を造ってはならない。

■ 偶像礼拝、靈的姦淫こそ、最も淫らな行為。



【過越祭・種入れぬパンの祭り】 出34:18～20

あなたは、種を入れないパンの祭りを守らなければならない。わたしが命じたように、アビブの月の定められた時に、七日間、種を入れないパンを食べなければならない。あなたがアビブの月にエジプトを出たからである。最初に生まれるものは、すべて、わたしのものである。あなたの家畜はみな、初子の雄は、牛も羊もそうである。ただし、ろばの初子は羊で贖わなければならない。もし、贖わないなら、その首を折らなければならない。あなたの息子のうち、初子はみな、贖わなければならない。だれも、何も持たずに、わたしの前には出てはならない。

■ 過越の贖いの犠牲は、究極的に受難のメシアを示す。



【安息日・三大祭の遵守】 出34:21～24

あなたは六日間は働き、**七日目には休まなければならない**。
耕作の時も、刈り入れの時にも、休まなければならない。

小麦の刈り入れの初穂のために**七週の祭り**を、年の変わり目に**収穫祭**を、行わなければならない。年に三度、男子はみな、イスラエルの神、【主】、主の前に出なければならない。

わたしがあなたの前から、異邦の民を追い出し、あなたの国境を広げるので、あなたが年に三度、あなたの神、【主】の前に出るために上る間にあなたの地を欲しがる者はだれもいないであろう。

* 七週の祭り(五旬祭・ペンテコステ) * 収穫祭(仮庵祭)

■ 主に従う者を、主が守られる。安息日と三大祭が、しるし。



【再度、石に刻まれた十戒】 出34:25～28

わたしのいけにえの血を、種を入れたパンに添えて、ささげてはならない。また、過越の祭りのいけにえを朝まで残しておいてはならない。

あなたの土地から取れる初穂の最上のものを、あなたの神、【主】の家に持って来なければならない。子やぎをその母の乳で煮てはならない。」

【主】はモーセに仰せられた。「これらのことばを書きしるせ。わたしはこれらのことばによって、あなたと、またイスラエルと契約を結んだのである。」

モーセはそこに、四十日四十夜、【主】とともにいた。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。そして、彼は石の板に契約のことば、十のことばを書きしるした。

神が刻んだ最初の板

モーセが刻んだ次の板

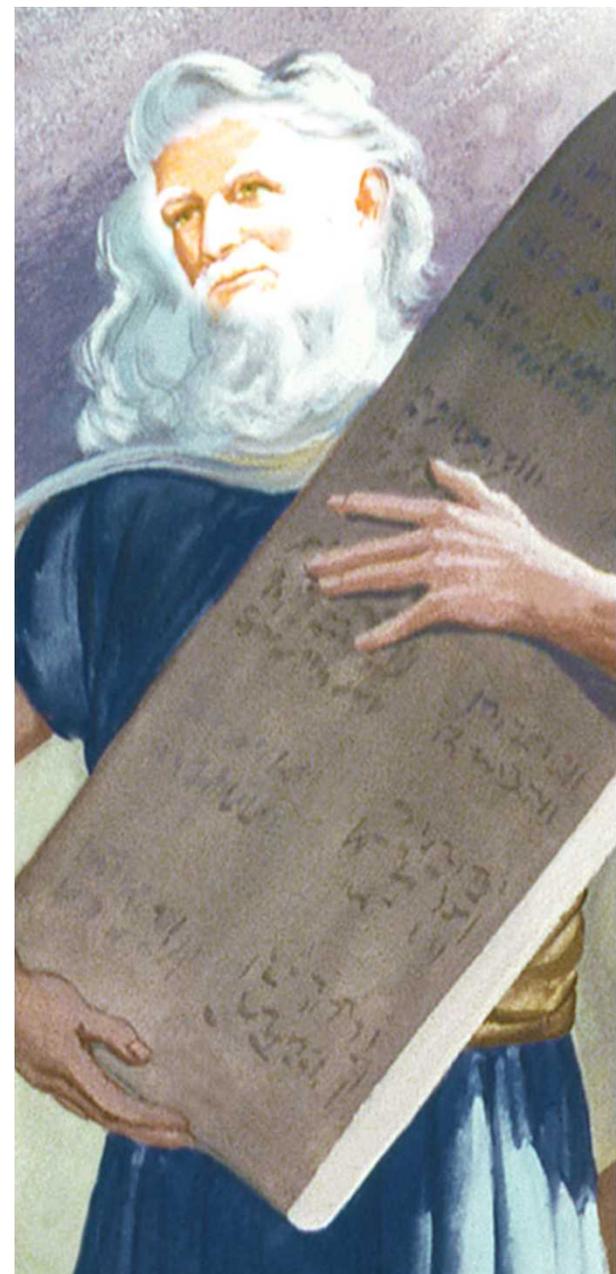


【主の栄光の反映】 出 34:29～31

それから、モーセはシナイ山から降りて来た。モーセが山を降りて来たとき、その手に二枚のあかしの石の板を持っていた。彼は、主と話したので**自分の顔のはだが光を放った**のを知らなかった。

アロンとすべてのイスラエル人はモーセを見た。なんと**彼の顔のはだが光を放つ**ではないか。それで彼らは恐れて、彼に近づけなかった。モーセが彼らを呼び寄せたとき、アロンと会衆の上に立つ者がみな彼のところに戻って来た。それでモーセは彼らに話しかけた。

- 鏡のように、主の栄光を反射していたモーセの顔。
残り香のように、しばらく栄光が放たれていた。

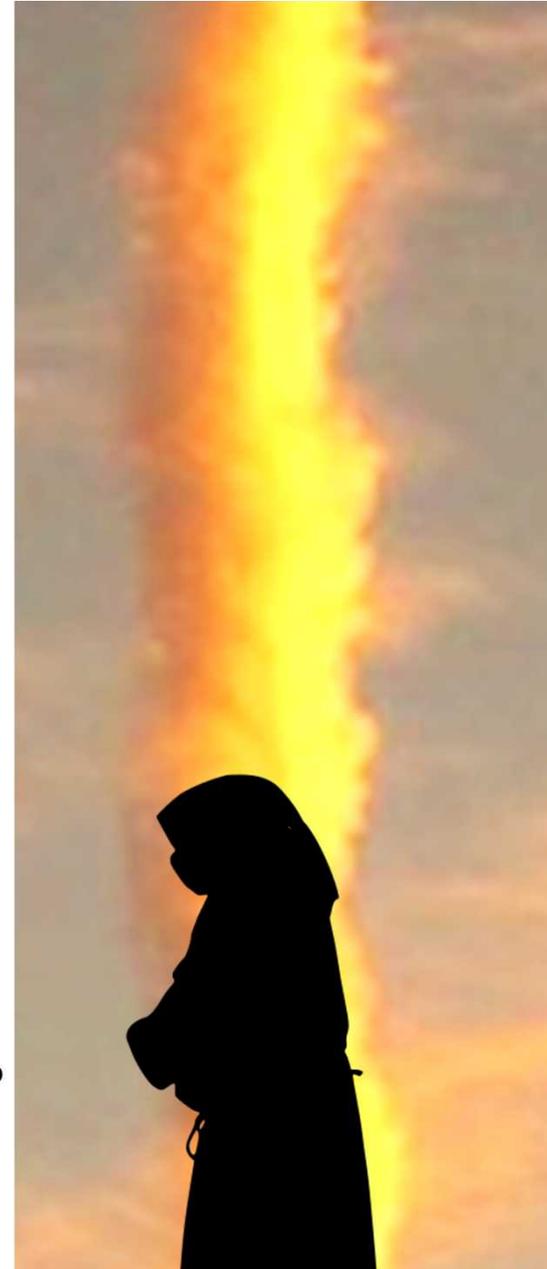


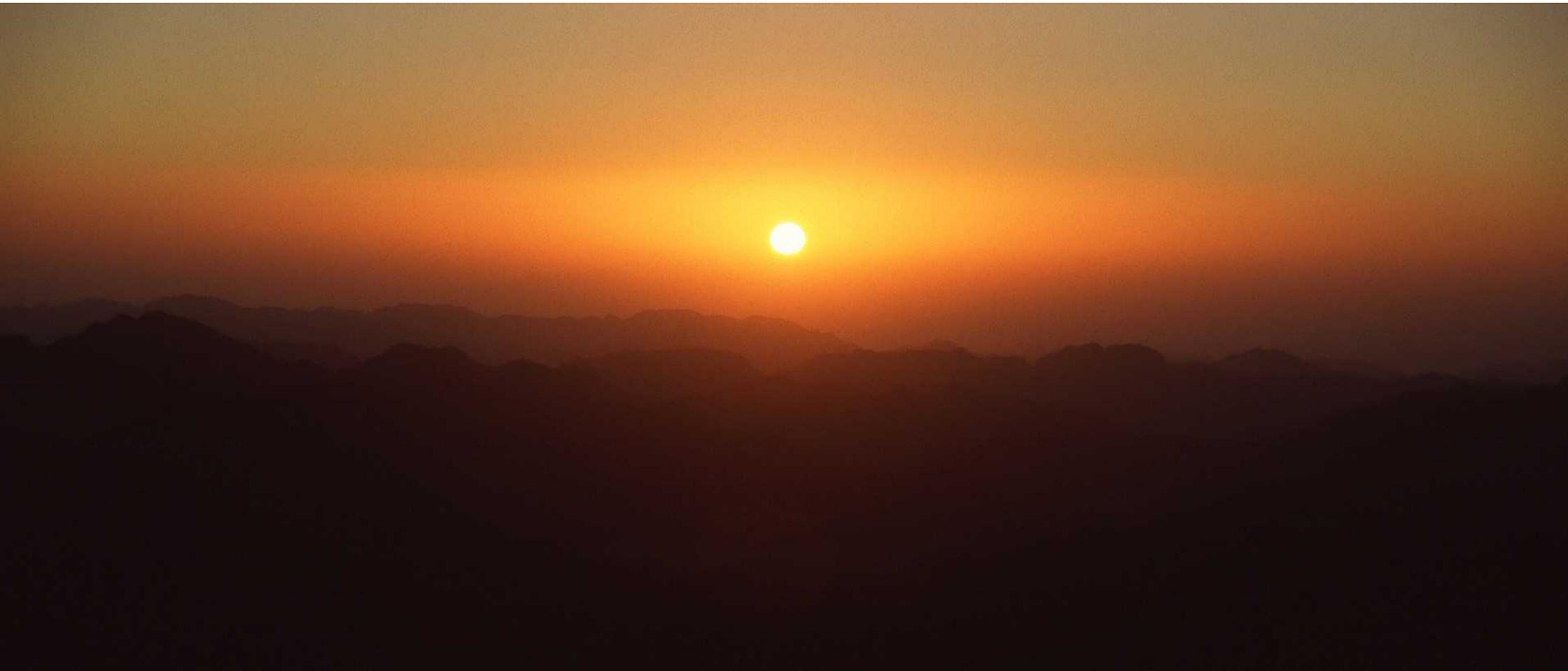
【栄光を反射するモーセの顔】 出 34:32～35

それから後、イスラエル人全部が近寄って来たので、彼は【主】がシナイ山で彼に告げられたことを、ことごとく彼らに命じた。

モーセは彼らと語り終えたとき、顔におおいを掛けた。モーセが【主】の前に入って行って主と話すときには、いつも、外に出るときまで、おおいをはずしていた。そして出て来ると、命じられたことをイスラエル人に告げた。イスラエル人はモーセの顔を見た。まことに、モーセの顔のはだは光を放った。モーセは、主と話すために入っていくまで、自分の顔におおいを掛けていた。

- モーセは、民の前ではおおいを掛け、主の前で外した。
- 反射される栄光もまた、民への神の臨在のしるし。





Ⅲ. まとめと適用

主の御顔を仰ぎ見よう
おどろくばかりの恵みに感謝して

【モーセが垣間見た、神の御顔】

■ 共に行ってくださいと、とりなし願うモーセへの、主の答え。

「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう。」

➡ 「わたしの顔(パニーム)」が、一緒に行き、安息をもたらす。

■ 主の栄光とは、**主の御顔の輝き**。

➡ 罪ある人は、本来、直視できない。たちまち滅びてしまうから。

■ 執拗に願い求めたモーセは、**御顔**の後ろ姿を垣間見た。

➡ それだけでも、しばらく、モーセの顔は照り輝いていた。

➡ **主の栄光の偉大さ、きよさの、ほんの一端。**

【モーセが垣間見た、神の御顔】 IIコリント3:12～18

3:12 このような望みを持っているので、私たちはきわめて大胆にふるまいます。

3:13 そして、モーセが、消えうせるものの最後をイスラエルの人々に見せないように、顔におおいを掛けたようなことはしません。

3:14 しかし、イスラエルの人々の思いは鈍くなったのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗読されるときに、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによって取り除かれるものだからです。

3:15 かえって、今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。

【モーセが垣間見た、神の御顔】

- モーセは、消え失せていく神の栄光が、民に気取られないよう、顔におおいを掛けた。(パウロの解釈・Ⅱコリ3:12)
- イスラエルの民の心は神から離れ、覆いはかけられたままだった。
- 律法が示すメシア、主イエスが、十字架の贖いを成し遂げられた時、神と人との間の隔て、覆いは、取り除かれた。

【神の御顔を仰ぎ見よう】 IIコリント3:16～17

3:16しかし、人が主に向くなら、そのおおいを取り除かれるのです。

3:17 主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。

- 主イエスの十字架の贖いと葬りと復活の福音を信じたとき、私たちの覆いは取り去られる。
- 福音を信じた者の内に住んでおられる聖霊が、心に刻まれた新しい契約を成し遂げるべく、助けてくださる。
- 神の完全な支配がもたらす解放。それが、キリスト者の自由。

【神の御顔を仰ぎ見よう】 II コリント3:18

3:18 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

- 御霊とは、まさに、私たちの内におられる主の栄光。
幕屋の栄光のように、神の宮である私たちの内に栄光がおられる。
- 内に住まわれる聖霊を信頼し、委ねる。それが、私たちの道。
己の弱さを自覚し、切に助けを求めよう。
躊躇する心を吐露し、覚悟して、一步を踏み出そう。行動を起こそう。
- モーセが、主の山に向かって、再度、踏み出したように。
主に向かって、歩み出そう。栄光を映し出す者へと変えられていこう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

モーセのねがった栄光(えいこう)は、御霊(みたま)により、わたしの内(うち)におられます。おどろくべき めぐみを味(あじ)わい知(し)り、真実(しんじつ)に生きるもの、栄光(えいこう)を反映(はんえい)するものとしてください。主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」